

平成19年度 柘形こども文化センターの管理運営に対する評価について

1 指定管理者

(1) 指定管理者	財団法人かわさき市民活動センター
(2) 指定期間	平成18年4月1日～平成23年3月31日
(3) 業務の範囲	柘形こども文化センターの管理運営に関すること 東生田小学校わくわくプラザの管理運営に関すること

2 管理運営（事業執行）に対する評価

評価項目	平成19年度管理運営の状況	評価及び指導
(1) 管理業務の実施状況		
施設の運営に関する職員体制に関すること	①人的能力の充実を図るため職員の児童厚生員資格取得を進めると共に、新規採用職員は業務に関する資格取得者から選考しました。②本部の職員体制については管理係長1名、区運営担当主査を3名配置して各館との連携強化を図りました。	職員の業務に関する資格の取得を進めたこと、また本部職員の充実によりかわさき市民活動センターが管理運営している他のこども文化センターとの連携を図ったことは評価できる。職員の研修については、スケールメリットを生かし、大規模な研修を実施し、また、指定管理施設の各区、施設単位での研修も実施することにより職員のスキルアップを図っていたことは評価できる。今後もこども文化センター及びわくわくプラザの職員配置が適切に行われるよう努めること。
施設の管理運営に対するニーズ等の把握に関すること	こども文化センターにおいては、運営協議会で委員の意見を取り入れた新しい行事を実施した。こども会議や行事を開催した時などには、こども達の意見を聞き取った。わくわくプラザにおいては、こども会議や保護者懇談会を定期的を開催し、ニーズを把握した。また、意見箱の設置をした。	継続的に利用者や地域住民からの意見・要望等を聞きニーズの把握に努めていたことは評価できる。意見箱の活用等により積極的にニーズの把握に努めていたことは評価できる。
サービスの提供に関すること	こども文化センターでは、こどもが興味を持って、気軽に楽しく参加でき、様々な体験ができるような行事や、季節を味わう行事、老人いこいの家の方を講師とした交流行事を実施しました。また、利用者の側に立って、利用しやすいルールづくりをしました。ホームページもより充実させました。わくわくプラザでは、学校改築で校庭利用の制限の中、室内遊びの充実を図りました。	運営協議会やこども会議等を実施しサービスの提供を行っていた。また、ホームページの内容をより充実させていたことは評価できる。障害児については、障害児相談員を雇用し、必要に応じ職員の相談を行い障害児の対応を充実させていたことは評価できる。

事業の実施に関する こと	事業計画に基づき、一般行事（ドッジボールの日などのスポーツ的行事、おやつ作りなどの食育、干し柿作りなどの季節的行事）を実施や、子育て支援として、子育て支援センターの先生を招いての定期的な行事を実施しました。また初めての中高校生向けのナイトシアターを実施しました。また地域と連携し、「こ文まつり」を実施し、233人の参加を得ました。	運営協議会等との連携により地域のニーズに合った行事を実施したことは評価できる。今後は、把握したニーズを具体的な事業の実施に繋げるルール作りなど工夫をすること。また、ボランティアの活用に努めること。
個人情報取扱に関する こと	財団法人かわさき市民活動センター個人情報保護方針に基づいて、書類を分け、ファイリングし、関係者以外の目に触れることのないよう取り扱いに注意し、保管しました。必要以上に収集する情報を増やさないようにしました。	個人情報の取扱については、概ね問題なく処理されている。
施設の安全管理に関する こと	日常的な施設内の安全点検と整備を心掛けました。また、消防訓練について見直しを行い、消防法等に基づいた訓練を実施しました。わくわくプラザでは防犯研修を実施し、防犯知識の学習と実践を行いました。	毎日の清掃や始業時の点検を行い、安全性に努めている。また、東生田小学校わくわくプラザにセンサーライトを設置し、より安全性を高めていたことは評価できる。
(2) 利用状況		
①こども文化センター	延べ利用者数 16,655人 延べ団体利用数 3,080団体 （主な行事等） ちびっこ広場 ミニまつり （特色のある行事） 手芸	地域の状況に合わせた特色ある行事の実施している。また、地域との連携を図り行事を実施していることは評価できる。行事の実施に当たっては、具体的な数値目標等を設定し客観的な達成状況が分かるように心がけること。
②わくわくプラザ	1 東生田小学校わくわくプラザ 登録者数 323人 延べ利用者数 11,871人 （主な行事等） オセロ大会 腹話術鑑賞 （特色のある行事） 科学実験	行事については、順調に実施されている。利用状況は具体的な数値目標等を設定し客観的な達成状況が分かるように心がけること。

評価項目	平成19年度管理運営の状況	評価及び指導																																	
(3) 収支状況																																			
① 収支状況	<table border="0"> <tr> <td></td> <td>(単位：円)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>収入 指定管理料</td> <td>34,379,514</td> <td></td> </tr> <tr> <td>支出 人件費</td> <td>28,828,030</td> <td></td> </tr> <tr> <td>管理費</td> <td>2,287,137</td> <td></td> </tr> <tr> <td>事務経費</td> <td>1,291,898</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他経費</td> <td>1,436,042</td> <td></td> </tr> <tr> <td>青少年事業資産取得支出</td> <td>909,090</td> <td></td> </tr> <tr> <td>減価償却引当資産取得支出</td> <td>40,492</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第1回精算に伴う返納金</td> <td>636,363</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>35,429,052</td> <td></td> </tr> <tr> <td>差引</td> <td>▲ 1,049,538</td> <td></td> </tr> </table>		(単位：円)		収入 指定管理料	34,379,514		支出 人件費	28,828,030		管理費	2,287,137		事務経費	1,291,898		その他経費	1,436,042		青少年事業資産取得支出	909,090		減価償却引当資産取得支出	40,492		第1回精算に伴う返納金	636,363		合計	35,429,052		差引	▲ 1,049,538		<p>単館では支出が上回ったが、55館全体での指定管理料内で事業の実施を行っている。今後は収支のバランスを考慮しつつ、事業をより充実させるため適切な経費の執行を図ること。</p>
	(単位：円)																																		
収入 指定管理料	34,379,514																																		
支出 人件費	28,828,030																																		
管理費	2,287,137																																		
事務経費	1,291,898																																		
その他経費	1,436,042																																		
青少年事業資産取得支出	909,090																																		
減価償却引当資産取得支出	40,492																																		
第1回精算に伴う返納金	636,363																																		
合計	35,429,052																																		
差引	▲ 1,049,538																																		

3 管理運営（事業執行）に対する全体的な評価

指定管理以前から委託事業者としてこども文化センター及びわくわくプラザの管理運営に携わっていた経験を生かし、また、全市58施設の内55施設の指定管理者としてのスケールメリットを生かし、施設ごとに偏りの無いサービスの提供を行っており、区ごとのこども文化センター合同行事の実施や全市規模の行事の実施を行っていた。行事の実施についても施設ごとに特色ある行事を実施していることは評価できる。また、各施設を統括する本部職員を配置することにより、他のこども文化センターと連携を図り管理運営を行っていたことは評価できる。

55施設の指定管理者としてのスケールメリットを生かし、安定した経営を行っていたことは評価できる。

4 来年度の管理運営（事業執行）に対する指導事項等

次年度も引き続き55施設の指定管理者として安定した経営、他施設と連携した行事等スケールメリットを生かした管理運営を実施すること。事業の実施に当たっては運営協議会を始め地域と連携し、より一層地域の状況に合わせた特色ある行事の実施等を行うこと、また目標利用者数を設定する等具体的な数値目標を設定し客観的に事業の達成状況が分かるようにすること。